

有縁の皆さんでお読み下さい

2023.No324

純正寺報 青色青光

仏歴 2566(令和5)年 5月号

明日ありと 思う心のあだざくら 夜半に嵐の吹かぬものは

お念仏の 家族に なるう

毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

お寺のかわら版

じゅんしょうじほう

純正寺報

青色青光 No.324



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵（漢見覚恵）

〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス：purity-temple.since1499@nifty.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

親鸞様のご誕生から、今年は850年に当たります。

宗祖降誕会

5月20日(土) 10:00 ~ 12:00
13:30 ~ 15:30

勤行：『正信念仏偈和讃』

法話：愛荘町寶琳寺 八木 益夫 師

講題：「昔ばなしのみおしえ」

YouTube 純正寺チャンネル LINE 純正寺公式アカウント 純正寺公式ホームページ



上記の QR コードを、スマホの QR コードリーダーで読み込んでください。

5月25日(ホ)
10:00~12:00 13:30~15:30
こんき常例布教
法話：純正寺住職 釋 覚恵

純正寺の法要は「YouTube」「LINE LIVE」で、生配信でも録画でもご視聴・お聴聞していただけます。

住職法話 我聞如 是

われかくのごとくきく

コロナ禍から学ぶ

「新しい日常」(前編)

「新しい日常」

新しい年度が始まり、進学・進級・就職などで期待と緊張の高まる季節でもありますね。平日の朝、地元の小学校の近くの交差点で、黄色い旗を持って子どもたちの登校を見守るスクールガードの活動を始めて十八年目になります。横断歩道を渡る子どもたちに「おはようございます」と声をかけると、元気に返事が返ってきて、中には「ハイタッチ」をしてくれる子もあって、などという光景は三年前からありません。

コロナウイルス感染症の流行から三年、登校時の横断歩道での活動は全員がマスクを着用して、声を出さない「静かに見守る」スクールガードになりました。しかし、三月半ばからコロナ対策の規制が緩和され、マスクの着用は医療機関や福祉施設など指定されたところを除き、屋外屋内問わず個人の判断に任せられることになりました。また、来る五月八日には、コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いがジフテリアや結核などと同じ「二類」相当から、

季節性インフルエンザなどと同じ「五類」に移行されることになり、毎日の暮らしもようやく緊急的日常生活から新たな日常へと移行していくようです。

「外せない」

ところが、登校時の子ども達は屋外であつても依然マスクを着用している子がほとんどで、外す気配はありません。「マスク外さないの？」と尋ねても、静かに頷くだけです。確かに、多くの学年の子ども達が、入学時からすでにマスク登校でしたから、もうマスクを着用している方が日常となり、外す方がかえって違和

感があるのかもしれませんが、ニュースの記事には、高校生へのインタビューで、人前でマスクを外すことは下着を脱ぐくらいに恥ずかしいという言葉が紹介されていました。

さて、何故子ども達は未だマスクを外さないのでしょうか。それは、私たち大人が未だマスクを外さないことにあると私は感じています。私なりの子育ての経験から、子どもは親や大人が何を言っているかというよりも、何をしていくかということから学ぶ傾向があると感じるからです。では、何故私たち大人はコロナが流行する前のように、平常はマスクをしない

という生活に戻らないので
しょうか。

「自灯明・法灯明」

「コロナより怖いのは人間
だった」という言葉が、あ
るお寺の掲示板に書かれて
ありました。これは、コロ
ナウイルスに感染する怖さ
より、コロナウイルスに感
染した後の周囲の人からの
偏見・差別・誹謗中傷の怖
さの方がより強いというこ
とを表しています。私たち
は、物事を判断するときに、
私かどの様に思うのかより
も周りの多くかどの様に
思っているのかを基準にし
ることが当たり前になって
います。だから、本当はマ

スクなどもう外したいと思っ
ているのに、マスクを外して
いる自分を周りの多くのマス
クを外していない人たちはど
の様に見ているのだろうかと
いうことが気になって、結果
自分もマスクを外せないとい
う状況に陥っている様です。
この状況を仏教では、治して
いかなければならない心の病
んだ状況だと判断します。

仏教の基本の教えの一つ
に「自灯明、法灯明」とい
う言葉があります。「自灯明」
とは「自らを灯（ともしび）」
とし、よりどころとして、
他を灯とすることなかれ」
という意味です。物事を自
分以外の他者にゆだねるこ
となく、自分で判断してい
くことが大事であると、仏

教では説くのです。

しかし、何の後ろ盾や根
拠もないのに、自分で判断・
決定することはとても不安
なことです。ですからそこ
に「法灯明」という言葉が
あります。「法灯明」とは「法
（ほう、教え）を灯とし、よ
りどころとして、他を灯と
することなかれ」という意
味です。

「死にたくない！」

では、これからの新しい
日常を生きる上で大切な、
他者に判断を依存せず自分
で判断する根拠となる仏教
の教えはどの様なことかと
いうと、まず私たちが人目
を気にしてマスクを外せな

いでいるのは、ウイルス感
染の怖さからです。では、
何故怖いのかというと、感
染すると死ぬかもしれない
からです。私たちは、根本
的に「死」を恐れています。
そして、「死」を「生」とい
う最高の「善」を破壊する
最低の「悪」だと認識しま
す。ですから、自分の死を考
えるととてつもなく苦しくな
るのです。

これを「死苦」といいます。
そして、老いや病は死につ
ながると思うので、これも
「老苦」「病苦」といいます。
これに、生まれる苦を合わ
せて「生老病死」の「四苦」
といえます。この四苦を治
癒させることが仏教の目的
です。

後編につづく



純正寺5月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



今月のエコキャップ

一、五六〇、九七二個

年度はじめの四月も、大きなビンール袋四袋分の七、八二六個のキャップをお預かりしました。ありがとうございました。

キッズサンガ「ほとけの子ども会」

6日(土)

10:00~12:00

就学前・小・中学生対象

『らいはいのうた』のお勤めの後、仏典童話の読み聞かせと楽しいおやつタイムです。

ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

9日(火)・23日(火)

10:20~11:30

年齢・性別は問いません

お香とインド音楽の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう。

みんなの食堂ビハーラ

11日(木)・25日(木)

17:00~19:00

年齢・性別は問いません

いよいよ、コロナも2類から5類へ。でも、気は緩めずに感染対策しながら楽しい学習と食事を。

「月例法話座談会」

17日(水)

14:00~16:00

年齢・性別は問いません

日常の「何故?」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

親鸞聖人ご降誕の縁「降誕会」

20日(土)

10:00~12:00.13:30~15:30

年齢性別などは問いません

親鸞聖人のご生誕記念のご法縁。ご法話は、愛荘町寶琳寺住職の八木益夫師です。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

21日(日)

18:00~20:00

年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

こんき常例布教

25日(木)

10:00~12:00.13:30~15:00

年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えて、法友ができる法座です。法話は、純正寺住職の釋覚恵です。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

28日(日)

16:00~18:00

小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。マスクの着用は自由です。

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:45

年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Pococha で生配信もします。

彦根組後援「てられんけん」

7日(日)

14:00~17:00

年齢・性別は問いません

2年かけて、計12回で学ぶ、門徒推進員養成の連続研修会。教えが身につきます。

祝、市会議員当選

春の統一地方選挙の後半戦、彦根市議会議員選挙が四月十六日に告示され、純正寺のご門徒としては四半世紀ぶりに、足田菜穂子さんが立候補されました。そして、二十三日の投票の結果、新人八名中五名が落選という厳しい状況の中、見事新人トップの得票数で当選されました。これから、市政にも純正寺の念仏サンガの活動にもご参画ご尽力下さることを、大いに期待しています。おめでとーございませう。